



「山彦の滝」「鹿鳴の滝」森林散策会

身近に感じる大自然

秋晴れの10月1日(日)、遠軽町丸瀬布上武利の「山彦の滝」
ろくめい
「鹿鳴の滝」で秋の森林散策会を行いました。

35名の参加者が6班に分かれて散策開始です。

道道から「鹿鳴の滝」までの間は、足下が悪く苦勞しましたが、マイナスイオンを浴びながら元気いっぱい丸瀬布の森を歩きました。



一抱え以上もある太いハリギリやアカエゾマツなどが生い茂り、鹿に皮を食べられ枯れた木やキツツキの空けた穴、トドマツの幹についたヒグマの爪痕など、大自然を身近に感じながらの散策です。

「山彦の滝」では、28mの瀑布を目の前にし、滝を裏側から見るといってちょっと不思議な体験もできました。

イタヤカエデやヤチダモなどが色づき始め、カツラが甘い香りを漂わせる森林で初秋の一日を楽しみました。(吉田昭)

秋の森林散策会

熊の爪痕にビックリ！

晴天にも恵まれ、心地よくアスファルトの道を歩いていくと急にケモノ道のような歩道に入りました。

うっそうとした大木の茂る自然林、急な石ころのイバラ道をつまづき、ころびそうになり、ササの葉にしがみつきながら進みました。

途中、心地よい小川のせせらぎを聞きながら、やっとの思いで鹿鳴の滝に着きました。

涼しい滝の飛沫^{しぶき}を浴びながら一休みして山彦の滝に向かいました。

途中にエゾシカが木の皮を食べたあとや大木にヒグマのひっかき傷が、降りるときについたとのこと、ビックリです。



熊の爪痕

赤い物が見えたのでおそろおそろひっくり返してみると堅く、ガイドさんに見てもらおうとホオノキの実で、乾燥すると割れて紅いタネが出てくるとのことので楽しみに観察しています。



赤いホオノキの実

そうしてやっと着いた「山彦の滝」では、滝の裏側を通るという初めての体験をしました。

疲れた足を温泉で癒やして、思い出に残る楽しい一日を過ごすことができました。

ガイドさんのお話がとてもわかりやすかったので勉強になりました。ありがとうございました。

佐藤エミ子

秋の森林散策会

違う季節にも歩きたい

森林散策の楽しさを知ったのが数ヶ月前、それから週末にちょこちょこと近場の散策を楽しんでいます。

初めての丸瀬布でどんな樹木や植物に出会えるのか、とても楽しみにしていました。

「鹿鳴の滝」までは足場が悪かったのですが、やわらかい土の上に樹木の根が張り巡り、登りやすくなっていました。



樹木が足下をサポートしてくれているような気分になり、森林が私たちを歓迎してくれているように思いました。

「山彦の滝」までの道は、樹木に熊の爪痕が残されていたり、たくさんのキノコが固まって生えていたり、岩の上に樹木が生えていたり、右を見ても左を見てもすてきな光景でした。

今回の散策コースを、違う季節にも歩きたいです！
とても楽しい散策会をありがとうございました。

相馬 真由子

【なるほどクイズ】 (答えは会報のどこかに…)

オホーツクの森林にはエゾシカが生息していますが、増えすぎて農林業被害などが起きています。そこで問題です。



『1歳以上のメス鹿の妊娠率は90%以上、胎児数は1、胎児の性別比は1:1、平均寿命は3~4歳、最長20歳、自然増加率15~20%』という条件で、「鹿のいない島にメス鹿を1頭放します。10年後には何頭になっているでしょう？」(年利8%だと9年でおおよそ2倍、頭を柔らかくして考えて…)

秋の森林散策会

滝と温泉に癒やされ

快晴の青空で、森林散策日和りでした。

鹿鳴の滝まで750m、それから山彦の滝までさらに500m、所々に紅葉した木々、秋風に吹かれ、気持ちよく散策できました。



「鹿に皮を食べられた木は枯れ、やがて朽ち果ててしまう」というガイドの話に、自然の厳しさと、はかなさを感じてしまい、木がとても愛おしく感じ、微力でも森林を守る手助けができればと思いました。

散策の後は、温泉に入り、おそばを食べて、のんびり過ごすことで日頃の疲れを癒やしました。

イベントを企画・運営してくださった関係者の細やかな心遣いに本当に感謝します。

また、すてきな企画をお待ちしています。

秋田 直美

クラフト教室に参加しませんか？

クラフト研究隊では、森の自然素材での作品作り（クラフト教室）を計画しています。隊員以外の会員の方も歓迎です。（ただし材料に限りがあります）

自然の形を生かしながら“遊び心”をもって楽しみ、作品作りに挑戦しましょう。

日時 1月21日(日) 9:00~12:00
場所 常呂川森林ふれあい推進センター
申込先 事務局(常呂川FC)または吉田(昭)まで
締切り 1月16日(火)まで



オホーツクの森林づくり

笹を刈るのは大変！

9月2日（土）、常呂川FCとの共催（自然再生モデル事業企画運営協議会後援）で「オホーツクの森林づくり」を行いました。

これは、悪天候により6月から延期となっていたもので、当会7名・常呂川FC2名の参加でした。

平成19年から行われているカミネツコン植樹…高さ3m以上になっているものもありますが、ササやツルに覆われている木もあります。



そんな木の成長を助けるために、植樹箇所周囲の草（ササ）刈り、植えた木が大きくなった箇所の食害防止シートの撤去、見出し杭の設置を手分けして行いました。

「はじめて大きな鎌を使ったけど、笹に跳ね返されて大変、森づくりの大変さを実感しました。」という声もありました。

午後からは、「平安林道～森の家」を散策して、オニグルミやキタコブシの実を観察、また、「この実をかじってみて…」と勧め、口中に広がる苦みに「これがミヤマニガウリ（深山苦瓜）です。毒ではないので胃薬だと思って…」とニヤリと笑うガイド…人間性を疑いたくなるシーンもありました。



受付時、散策終了後にストレスチェック（唾液中アミラーゼ濃度測定）も行われ、少し上昇した者もいましたが、多くの者が低下し「森林の中で過ごすことで心も元気になる」ことが分かりました。

なお、当会の参加者は次の通りです。（吉田昭）

【長谷川、植村、小島、渋谷、相馬裕、相馬真、吉田昭】

緑ヶ丘遊子児童館「児童館まつり」

新しいクラフトも必要…

9月10日（日）、「常呂川FCが他の用務で対応できないのでお願い！」と頼まれ緑ヶ丘遊子児童館「児童館まつり」のお手伝いをしました。

私たちは、縁日、制作、体験などの一環として「木エクラフト」（マツボックリクラフト、のこぎり体験）を担当しました。

館内では、サイエンスクラブの光のアート、カンバッチ作りなどが行われていましたが、天気も良く、焼き鳥の匂いも良く、なかなか建物内に入ってもらえず…残念！



こんな時は外で制作する方が楽しいかなと子どもたちに「作ってみたい！」と声をかけると「ネイパルで作ったもん！」とか「緑のセンターでやった。」など、こちらあまり人気なし。

子どもはすぐに覚えるし、飽きっぽいから「新しいこと」が必要と痛感しました。

動く工作とかバッチやペンダントなど、自分が身につけたり、誰かにプレゼントできるものを考えてみたいと思いました。

なお、当日お手伝いは、吉田昭、吉田正、渋谷の3名です。

（渋谷）

隊員募集しています！

◆自然に学び隊	隊長	吉田昭	義
◆炭づくり隊	隊長	小島	愼
◆クラフト研究隊	隊長	吉田昭	義
◆竹とんぼ隊	隊長	長谷川	秋夫

森へおいでよ! パネル展 ものづくりは楽しい!

9月30日(土)～10月9日(月)、北見市緑のセンターで常呂川森林ふれあい推進センターとの共催により、「森へおいでよ! パネル展」を行いました。



ボランティアによる森林づくり活動や森林散策、森の中で楽しく活動する「こども探検隊」を紹介した写真パネルやオホーツクの森の動植物パネル、ネイチャークラフトなどの展示を行いました。

期間中に訪れたのは500人以上、特に南小学校エリアの見学会(135人)が入って、大混雑の場面もありました。

また、後半の3日間は紅葉に染まる緑のセンター裏山の散策や自然の素材を利用した工作づくり、竹とんぼ作りを行いました。

特に工作づくりでは子供達はもちろんのこと、参加した大人の中には1時間以上も作品作りに熱中し、仕上がった作品を手で持ち上げ“やったー”とニコニコ顔で帰る姿が印象的でした。

今後もパネル展を通じて多くの市民に森林のすばらしさ、大切さをアピールするきっかけになるように内容を充実していきたいと思えます。



渋谷作: サンタクロース&森の小人たち

なお、協力いただいた方は次の通りです。(吉田昭)

【鞆師守、角、栄、長谷川、吉田正、渋谷、小島、金村、吉田昭】

第6回自主活動

身も心も満腹足…

台風一過の9月20日（水）（9月12日予定でしたが悪天候により変更）、第6回自主活動として、今年3日目の「ふれあいの森協定」に基づく活動（エゾムラサキツツジの植樹と展望台の塗装）を行いました。

エゾムラサキツツジは会報等で呼びかけたところ6本（吉田昭様3本、蛭名様2本、中島様1本）の提供をいただきました。

植樹作業は、展望台周辺が瓦礫場で腐葉土が少ないことから、苗木と一緒に土を担ぎ上げることから始まり、植え付け場所の地拵（草刈り・整地）を行い、瓦礫を掘り起こし、土を入れ、苗を植え、「元気に育て」の願いを込めて水をかけて終了です。

塗装作業は、経年劣化により色が薄く剥げていることから、ワイヤーブラシ等で汚れ、劣化部分を落とすことから始めました。

顔や衣服を汚しながらの作業でしたが、2時間ほどで展望台・階段の上側部分を塗りました。（残る裏側、柱等は次回（＝来年）以降の宿題です。）

振り返ると、化粧を終えた展望台は、イタヤカエデ・ナナカマド・ハウチワカエデなどの紅葉・黄葉に映えていました。

そして、疲れた身体を元気にしてくれたのは、小島コック長自慢の「イモ団子汁」「焼き鳥」と「ジンギスカン」でした。



気分はピカソ…

理想の森に一步前進させた気概と、胃の腑をイモ団子汁で満たし、身も心も満足する一日でした。（ごちそうさまでした。）

なお、協力いただいた方は次の通りです。（栄）

【角、吉田昭、吉田正、小島、植村、小林、栄】

第7回自主活動

「古の森」は紅葉真っ盛り

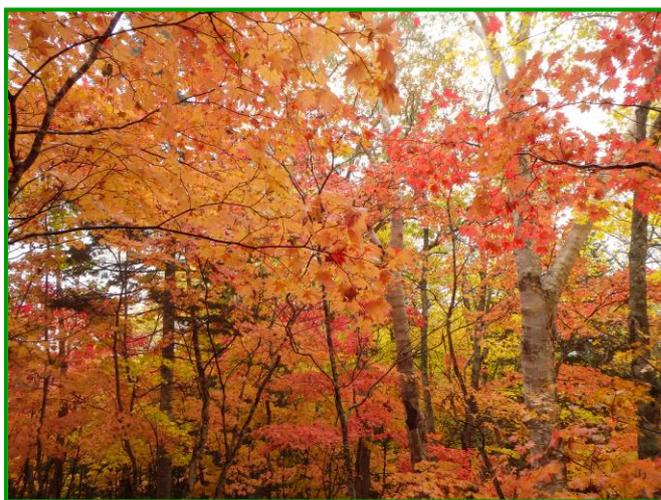
10月10日(火)、時々冷たい雨の落ちる日でしたが、今年最後の自主活動として、常呂川FCの要請を受けての物置補修と展望台周辺の歩道整備、古の森散策などを少数精鋭で行いました。

物置の補修は、老朽化によりコンクリート製の円筒穴が抜け落ちたところをパネルでふさいで終了。

また、展望台周辺の歩道整備終了後には「遊歩道の草刈で回りを見る余裕もなく、古の森を散策したことがない」



ことから、常呂川FC近藤さんにガイドをお願いして、十字園～三本松のルートで散策しました。



アカエゾマツやハルニレ・イチイの大径木や倒木更新などを見ながらの散策、赤や橙、黄色、緑、紅葉真っ盛りの森の中「すばらしい！」の一言です。

もっと、「古の森」遊歩道を活用しないともったいない！という気持ちを強く感じました。

その後、冷えた身体をみそ汁とホクホクのカボチャやイモで温めました。

なお参加者は、次の通りです。
(植村)

【長谷川、小島、小林、植村】



いいね！薪ストーブ

炭作りは特典つき…

秋も深まり、火の気も恋しく、炭作り季節の到来です。10月29日（日）、「炭づくり隊」のメンバーに声をかけ、集まったメンバー（5人）で化粧炭を作りました。

今までの反省・教訓を踏まえ、材料の下に松葉を敷いて「クリのイガ・マツボックリ・オオウバユリ・イケマ・シダ」などを並べました。



どんな風になるか？出来上がりを楽しみに、「森の家」周辺の散策、ストーブを囲んでの談笑タイムです。



そして、1時間、写真では分かりづらいですが、きれいに焼き上がりました。

しかし、細かい部分は取り出すときに折れ、置くときに折れ、完成品を皆さんに見せるのが難しい…一緒に作るときれいな作品が見られます。

そして、炭作りの傍らでイモ、カボチャ…アツアツ・ほくほくの美味しいこと、参加者だけの特典です。

みなさんも特典付きの炭づくり隊にどうぞ！ （小島）

【なるほどクイズ】（答え）

自然増加率（15～20%）に基づいて計算すると「15%＝4.04頭、20%＝7.43頭」となります。

しかし、問題は「メス鹿1頭」です…メスだけでは子どもは生まれないので

答えは「1（増減なし）か0（死亡）」です。

（電卓で計算した方がいたらゴメンナサイ、シカらないで…）



エゾシカ生息数は、H22年の約68万頭をピークに、北海道全体での駆除活動により、現在は約45万頭となっています。（数は推定）

食害だけでなく、希少種の絶滅危惧、踏み荒らし、土砂崩壊、不嗜好植物の繁茂など、生態系への影響もあり、シカトできない問題です。

募集しています

「わたしの美しい森」フォトコンテスト

林野庁では、『わたしの美しい森』フォトコンテストを開催することとなり、現在作品を募集しています。

主催者：「わたしの美しい森」フォトコンテスト実行委員会

目的：森林・山村の魅力を伝え、これをきっかけに、森林・山村を多くの人
が訪れ、森林・山村への理解・交流が促進され、地域経済の発展に寄
与し、また、人々の健康増進や、趣味・生きがいをもった生活など、
豊かな社会の実現に貢献する

募集部門：「景観部門」「生命部門」「体験部門」

募集期間：平成30年2月13日まで

応募資格：プロ・アマ問わず、一人1部門1点。最大3点まで

★応募用紙および詳細については、林野庁（北海道森林管理局）HP もしくは
常呂川森林ふれあい推進センターへ問合せ願います。

○冬の自然観察会

日時 平成30年2月25日（日）

集合 8：15

出発 8：30

到着 15：30予定

常呂川森林ふれあい推進センター前から貸し切りバスが出ます

場所 清里町 神の子池

内容 スノーシュー（借りられます）を履いての森林散策、
「オホーツク森の案内友の会」との合同開催を検討中
（詳細は、事務局へ問合せ願います）

持ち物 森林散策できる服装、昼食、飲み物他

参加費 200円（保険料等）

申込み 2月16日（金）まで

※ 申し込みは、別紙申し込み用紙を活用下さい

○第10回総会

日時 平成30年3月17日（土）

10：00～

場所 常呂川森林ふれあい推進センター2階会議室



木々に関するつぶやき

「クルミ」（堅い殻には知恵がいっぱい詰まっている）

北海道には、オニグルミ、サワグルミ、テウチグルミ（カシグルミ）があるが、サワグルミは道南地方のみ、テウチグルミは栽培種であり、管内に自生しているのはオニグルミである。

クルミの果実はそのままでは発芽せず、「土に埋める」「湿度を保ちながら冷蔵庫に保管」など、低温湿潤処理する必要がある。

自然界では、リスやネズミなどが貯食し、食べ残した物が発芽するという。

「貯食」してもらうために、おいしく、栄養のある実をつける。しかも、豊作・凶作を操作して食べ残しを増やす工夫もしているという。なんと賢いことだろう。

会費納入のお願い

当会は皆様からの会費を基に活動を進めており、滞納者が増えると運営に支障を来すことが避けられません。

年会費を滞納し続けた場合は、継続の意思がなく退会と判断せざるを得ません。



心当たりの方はよろしくお願いします。

— 納入方法 —

- ・ 総会および会が主催・参加するイベント時に納入
（会報等でご確認ください）
- ・ 常呂川森林ふれあい推進センター内の事務局に納入
- ・ 会の郵便局口座に振り込む（手数料がかかります）

振込先口座 19960-8073231

森林ボランティア「オホーツクの会」



お問い合わせ

北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター内
森林ボランティア「オホーツクの会」事務局

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3

TEL 0157-23-2960

FAX 0157-26-2144